

最小の予算で最大の効果が得られるよう、効率的・効果的な事業運営を行なった結果が令和2年度の黒字計上であり、決して本市の財政を楽観視してはいけません。

個別の施策に目を向ければ、ふるさと納税寄附金額が約5億5千980万円と前年度同様高い実績を上げたことは高く評価できる。

新たな自主財源の確保と市内経済活性化に大きく寄与する事業であることから、返礼品の充実や本市の情報発信を行い、さらなる寄附金額の増加に向けた取り組みを期待するものである。

9月にはしろいしサンパークがグランドオープンし、コロナ禍にあつても多くの方に来場していただき、好評を博している。

しろいしサンパークは、こじゅうろうくわすランドとおもしろいし市場は公設民営として指定管理者が、みのりキッチンとみのりラボは民設民営として、施設整備から運営までを民間事業者が行なっているのが特徴である。

民間事業者のノウハウや経営感覚を最大限に発揮し、県南の一

大交流拠点となるよう、施設を有効に活用していただきたいと考える。

また、10月には(仮称)白石中央スマートインターチェンジの新規事業化が決定し、現在、その整備に着手しているところである。

財政的にも本市の置かれていた状況を楽観視してはいけませんが、守りの姿勢だけではなく、攻めの姿勢、未来への投資は必要である。

周辺整備においては、しっかりとした概略設計やPPP・PFIの活用を図り、整備効果が最大限に発揮され、本市発展の起爆剤となることを大いに期待するものである。

公立刈田総合病院に対し、本市は、8億9千744万円、1市2町では約10億3千500万円と多額の繰り出しを行なった。

持続可能な病院運営のため、一定の負担は当然に必要であり、資金ショートを回避するために、年度途中の追加の資金注入もやむを得ないと考える。

しかしながら、財源不足に対し、単に資金を注入すればいいというものでもない。

一部に、白石市が刈田病院へ繰り出す額が少なくなることが刈田病院の財政悪化の原因だという主張があるが、刈田病院の財政悪化の根本は慢性的な赤字体質であり、その点を改善しなければ、資金注入は時のぎでしかなく、根本的な解決とはならない。

白石市の財政規模に合わない多額の繰り出しを続ければ、ただでさえ厳しい財政状況の中で、行政サービスの大幅な低下と、かつての夕張市のように白石市本体の財政破綻が現実味を帯びてくる。

そうならないためにも、刈田病院の経営改善は急務であり、86.7%と突出して大きな出資比率を持つ本市が、責任を持って刈田病院の経営改革に取り組んでいただくよう強く要望するものである。

令和2年度白石市一般会計および特別会計歳入歳出決算の状況全般については、適正かつ効率的に執行されており、困難の多い状況下、これからも限られた予算を効率的、効果的に活用し、市民福祉の向上に向け、積極的な事業の推進に取り組むとともに、

ますます厳しくなることが予測される市政運営に対し、さらなる行財政改革を進めていただくよう要望するものである。
以上の理由から、第63号議案に賛成である。

意見書

定例会最終日(9月27日)、議員提案として次の意見書が上程され、採決の結果、全会一致で可決されました。

意見書は関係機関に送付されました。

◎コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方税財源の充実を求める意見書(概要)

新型コロナウイルス感染症のまん延により、地域経済にも大きな影響が及び、地方財政は来年度においても引き続き、巨額の財源不足が避けられない厳しい状況に直面している。

地方自治体では、コロナ禍への対応はもとより、地域の防災・減災、雇用の確保、地球温暖化対策などの喫緊の課題に迫られているほか、医療介護、子育てをはじめとした社会保障関係経費や公共施設の老朽化対策費など、将来に向け増加する財政需要に見合う財源が求められており、その財源確保のため、地方税制の充実確保が強く望まれる。

よって、令和4年度地方税制改正に向け、令和4年度以降3年間の地方一般財源総額については、他の地方歳出に不合理なしわ寄せがなされないよう、十分な総額を確保することなど、5つの項目を確実に実現されるよう求めることについて、関係大臣および国会に意見書を提出するものである。

